

1985年、西側国のみ参加の片肺開催だったロス五輪の翌年に、神戸出身の私は中大理工漕艇部へ入部しました。東京での浪人時代（1浪）は体を動かさなかったため、大学入学後は体育会系クラブへ入部したいと思い、最初は当時関東1部リーグだった（と思う）中大ラグビー部に電話をしましたが、“理工学部生は入部できない”と断られ、理工学部生を受け入れてくれる体育会系クラブが他に無かったので、理工漕艇部を選びました。

‘85年4月末の理工系レガッタを目標に、入学後すぐの4月中旬から戸田合宿所（1階和室理工部屋）に入りました。当初入部希望者が10人程度いたと思いますが、毎日のように文字通り“夜逃げ”者が出て、1週間後には2人に減っておりました。結局この2人（金谷さんと私）が4年最後までの同期部員となりました。

当時はいわゆる“体育会体質”がまだ存分に残っていて、中大チャンも最強時代（ロス五輪では中大単独クルーが日本代表で、名艇？“ハリウッド”で出場、1988年ソウル五輪の代表も過半数が中大出身者でした）だったので、いわゆる“4年生＝天皇、3年生＝貴族、2年生＝人間、1年生＝奴隷？”的な階級社会でした。（未だに当時の先輩には頭が上がりません・・・）

1年生の頃は“早く人間になりたい！”と強く願っていたことを今更ながら思い出します。

2年生になってからは後輩の入部に力を入れて、結構部員も増えたのですが、体育会体質が嫌われたのか定着率が低く、3年生時には我々24期2人と25期2人の計4名しかいなくなり、合宿も理工部屋が使えず（合宿所の飯炊き、掃除当番がこなせない）、当時私の下宿（東京側の戸田橋ふもと）に合宿したこともあるくらいで、乗艇時もCOXが足りず、練習も含め部活動としてはつらい時期でした。4年生時によりやく部員の定着率も上がり、運動部としての活動が再開できました。

合宿以外の思い出では、3、4年時にはたまに私の下宿で焼肉パーティをすると、1kg/人ぐらい肉を食うので、4年＝牛肉、2-3年＝豚肉、1年＝鶏肉縛りにして、足りない分は野菜、白米を食わせて腹一杯にしていたことや、長期休暇の時は、東北や群馬県へ温泉旅行に行ったり、結構まとまりのある楽しいCrewメンバーだったことを思い出します。卒業後35年たっても当時の上下関係は変わらないですけど・・・

4年間を通して競技では大した成績を残せなかったですが、合宿生活での濃密な人間関係体験や、体力の限界までの追い込み、五輪（候補）選手との共同生活等、当時の理工漕艇部で体験したことは、社会人となった今でも良き思い出であり、自身の人格形成に大きな影響があった期間だったと思います。

今や“〇〇ハラはダメ！”と言える良い時代になってきていますが、社会に出ると、まだまだ理不尽なことを経験すると思います。若い学生時代に、いろいろなバックボーンを持つ人たちとの共同生活や、1つのことに仲間と集中して活動したり耐えたりする経験は、いわゆる“理不尽耐性”が育てられるのかなと個人的には思っており、“体育会”経験もそんなに悪くないぜ！とおすすめしたいぐらいです。

卒業後 35 年たった今では、当時鍛えた筋肉も削げ落ち（髪の毛も・・・）、運動と言えばゴルフとジョギングぐらいしかしていませんが、これからも細やかながら寄付を継続させて頂くことで、中大理工漕艇部の更なる発展に微力ながら貢献できればと思っております。

最後に、現役の皆様へ **Enjoy Rowing !**